

AOTOHOME

THE ORIGINAL RANGE OF VEHICLE ROOF TOP TENTS



ルーフトップに自由空間を創るという選択

車内にベッドを確保する準備や改造をせずに快適な就寝空間を提供してくれるルーフトップテント。装着も市販キャリアに固定するだけ。気になるその詳細をレポートしよう。

MAGGIOLINA AIRLANDER
マジヨリーナ・エアランダー
カップル

価格：351,750円(税込み)
問：ジファー・ジャパン ☎03-3231-8594
<http://www.ziferjapan.com>

DETA (カップル)
外寸：幅130×長210×高30(収納時)/92(展開時)cm
重量：54kg

構造 & 特徴

クルマに特別な加工は不要 市販のキャリアで確実装着

ジファー・ジャパンが国内にリリースするカー rooftop テントは4タイプ。このうち、今回ピックアップしたのは「マジヨリーナシリーズ」の「エアランダー」。就寝定員2名のカップルサイズだ。テントはハードカバー内にコンパクトに収まり展開&撤収はスムーズ。また水平展開(コロンブス)は片開き展開のルーフは、広く開放的な居住空間を約束する同シリーズ中のスタンダードモデルだ。カー rooftop への装着は市販ルーフキャリアに固定するだけで、前後ルーフバーの間隔が70〜145cm間で確保できればクルマ側の加工は一切いらぬユニバーサルデザイン。装着車を選ぶことのない高い汎用性は、ルーフトップテントの大きな特徴だ。



エアロダイナミックなデザイン

マジヨリーナシリーズの基本モデルがこのエアランダー。テント収納時はルーフボックス程度のサイズに収まり外観もスタイリッシュ

ルーフトップテントの大きな特徴は、クルマを乗り換えても使える高い汎用性。またベース車が設定されるキャンピングカーと違い、ルーフトップテントは好きなクルマに装着できるのも魅力。走りや安全重視のクルマ選びもできるというわけだ

クルマを買い換えても使える高い汎用性

装着は市販キャリアに付属の装着金具を使い4カ所で固定。スパナ1本で装着できる

展開

テントのセットアップはハンドルでワンタッチ感覚

クルマ1台分の駐車スペースがあれば就寝空間がどこでも確保でき、しかもテントの展開&撤収はスムーズだ。この機動性の高さはルーフトップテントの大きなメリットであり、深夜にキャンプ地に着いたとき、あるいは悪天候時など、いつでも素早くベッドスペースを作り出せるという安心感を生み出す。また、暗くなつてからキャンプ地を探しまわるという「誰かが」経験したことのあるストレスからも解放してくれるだろう。そしてこの手軽さは、いつでも思い立ったら行動に移せるという自由さにもつながるに違いない。



専用ハンドルでセキュリティを確保 3カ所のロック機構で確実収納

テントのセットアップは付属のハンドルを回すだけとシンプルだ。テントは室内側にあるパナタグラフ型の乗降扉でルーフ(上蓋)が閉まるシステム。展開時はハンドルに速度センサーをかけることで、風が強いときでもしっかりと固定する



テント本体とルーフは3カ所のロック金具で確実に固定。金具にはロック強度をアシストする機構が設けられるなど細部まで考え抜かれた構造



テントはハンドルを回して展開&撤収。撤収時はテントが本体内にきれいに収まるよう手で押し込みながらとなるが、それでも慣れれば数分で完了



ハンドルは着脱式でこれを車内にしまえば、駐車時にいたずらされたり本体内の荷物を濡される心配はない。専用ハンドル以外での展開は困難だ



テント内のルーフ乗降機構、特別なメンテナンスをすることなく半永久的に使えるとのこと。テントや各パーツ類の供給体制も完備され安心だ

部屋感覚の開放感あるスペースは 断熱や通気に配慮されたデザイン

今回ピックアップしたカプセルサイズ（就寝定員大人2名用）のテントフロア面積（内寸）は、幅×長がそれぞれ約120×210cm。平均的な日本人の体格ならば大人2人でもそのスペースには余裕があり、子どもが小さければ家族3人で寝ることもできそう。

テント展開時の室内高も写真下のように余裕。とてもカートのトップに展開したテントとは思えないほどの開放感がある。また、すべての窓と左右2カ所の出入り口には防虫ネットが備わるため、ここを開放すれば気持ちのいい風が通る。

そして特筆できるのは、テント内には独特の安心感があること。ルーフトップという高い位置に設置されたテント内はひと目が気にならず、いい意味で隔離感があるからだ。しかも、見晴らしは良好だ。実際にもルーフトップのテントは、虫の侵入や荒天時の浸水といった心配から解放してくれるのが嬉しい。

一部分の駐車スペースがあれば快適なベッドスペースが展開できる
身軽さも魅力



余裕のある室内高でゆったり メッシュカーテンで通気性を確保

テント内は大開口の出入り口が左右にあるため、外観から想像する以上の開放感がある。身長160cmのレポーターならテント内の高さに窮屈感はない。雨の日などはテント内で食事をとったり、のんびりとくつろぐこともできそう



テント前後に三角窓が装備される。また表生地と裏生地の縫い目をずらすことで雨の侵入を防ぐ。この縫製方法は全モデルに採用されている



テント内の天井には室内用照明が備わる。シガーライター用プラグ（オプション）で車内から電源を引けばテント内で照明のオン/オフが可能だ



テント左右の出入り口にも三角窓同様に防虫ネットが標準装備される。ここを開放すればテント内には十分な通気性が確保され暑いときも快適



テントの天井はキルティング加工された内張り（メッシュ）を施すことで断熱性をより高める。細部にいたるまでしっかりと作り込まれた印象で安心感がある



標準装備のマットレスは適度な弾力があり就寝時に身体が沈み込まない。さらにクッション性とのバランスもよく上質な睡眠環境を約束する



アルミ製ラダーは標準装備。ラダーは伸縮式で撤収時は本体内部に収納でき、ラダー上にはフック状になっているため安定性も高い



過酷な条件下でのテストに耐え 世界のキャンパーに 愛されるカートップテント

ティテール

半世紀にわたって培われた ノウハウによる高い完成度

このイタリア生まれのルーフトップテント。オートホームは、1957年に誕生。以来、過酷なテストが繰り返されバリッダカールラリーで実績を積み重ね、確かな耐久信頼性と高いクオリティがアピールポイントだ。国内でも1500台以上の販売実績があり、そのすぐれた耐久信頼性は折り紙つきだ。



テント生地は 通気と耐候性を両立

テント生地はすべてのモデルにハイテク生地、DRAALONを採用。この生地は高い撥水・防水性と十分な通気性を兼ね備える。テント内の結露を抑えカビの発生防止の効果も発揮する。生地も厚く耐久性も高い



FRP製のテント本体は優れた耐久性をもつ。細部もこのように入念にトリムされるなど、とにかく堅牢な作りで品質感が高い



キャンピングカーのボディにも使われるように、テント本体に採用されるFRPは高い断熱効果を発揮。さらにフロアは25mmの厚さを備える

25mm厚サンドイッチ構造の床断熱

インプレッション ルーフにベッドスペースを常備するという安心感がいい

レポーターも以前から気になっていたルーフトップテント。今回感じたのは、いつでも、どこでも、ベッドが展開できる安心感。しかも、テント収納時は予想以上にコンパクトなのでルーフに装着したままクルマを日常使いできる。この組み合わせによる相乗効果で生まれる身軽さ。これがルーフトップテント最大の武器ではないだろうか。



進みは入念で堅牢。各部のデザインも使い勝手がよく考えられている印象だ。パーツ供給やメンテ体制も整うが「これまで交換や補修のケースはほとんどない」と、ジファージャパンの担当者